

団長の独り言・第三十八回公演

「ざ・クリンキーパー」

「劇団ふあんハウス始動！」

劇団ふあんハウス37回公演「明日への旅路」が終わった2月の初旬。

中国の武漢で新型のウイルスが発見、感染者が次々と増え始め、日本国内でも初の感染者が出たとか？出ないとか？あの時は、その程度の状況だったと思う。

でも世間では、「予防」「予防」って言い始めていたので、公演の十日程前の1月下旬、ダイソーにて30枚入りのマスク（200円？300円？）を念のためって事で一箱だけ購入した。

「もう一箱くらい買っておこうかな？」って思って、2箱取ったけれど、店頭には山のようにマスクが陳列されていたし、マスクをする習慣のない私のことだし、30枚もあれば2、3年は持つだろうと思って、レジに並んでいたにもかかわらず、わざわざ一箱戻して、一箱だけ購入した。

案の定、公演期間中はそれほどマスクを着用せず、新型コロナウイルス対策というよりも喉の保護のため、とりあえず仕込みの時、ちょびっと着けては「ポイ」「ポイ」って感じで、3日で7枚位使った…。

化粧前にそのマスクの箱が置いているのを見た長男の恒士郎は、「さすが！よく手に入ったね」と言ってきたが、私は今一ピンと来なかった。だって十日前には、ダイソーに沢山あったんだのだから…。

その公演（明日への旅路）も無事終わり、気持ちに余裕が来ると、世間の「マスクがない！」って声がようやく私の耳に入ってきたけど、「ダイソーに行けば沢山あるのに」と、その時もまだ呑気な気持ちだったけど…。

うあー！ない！！！！ダイソーどころか、どこもかしこもマスクがない！

マスクを一箱戻した事をとっても後悔するが後の祭り…。

あれから数か月、今、世界中がとんでもない事態に直面している。

我々の本番が終わった翌週あたりから、「演劇公演中止」を決断する団体も増え始め…大相撲が無観客興行、野球のオープン戦もそう…。

でもすぐに終息するだろうって、なんとなくそんな事を思いながら8月公演で上演する「ざ・クリンキーパー」の脚本執筆に勤しんでいたが、3月に入っても終息する気配はない。

小、中、高の学校の登校禁止…そして稽古場として利用している全ての公共施設の利用の中止が発表され始めると、さすがにちょっとこれは「やばいぞ」と思い始める。

我々の公演は8月なので、それまでには終息してしてくれるだろうっていう希望を持ってはいるが、こればかりは先が全く分からない。

それより何より、稽古場の利用禁止の日にちが、当初の予定よりもどんどん伸びてきて、果たして5月も稽古場が利用出来るのか？全く不明。稽古が出来なきゃ、公演開催も出来ないって事になる…。

そんな中でも、脚本は完成した。

早速、睦子さん（佐藤睦子）に電話をすれば、相変わらずの活舌のいい歯切れのよい声で、「早く脚本が読みたい。」「早く稽古したい」と、めっちゃめっちゃ元気！他のメンバー達もみなそんな感じ。これは正直驚いた。

こんなご時世だし、さぞみんな意気消沈の公演は中止にしませんか？「みたいな声が来るのも覚悟していたのに…やる気満々なのがすっごく嬉しかった。ただ現実問題、劇団活動はこれから先の情勢を見つつって事にはなる。

「芝居なんてものは、緊急時にはまったく必要のないものなんだ」って大震災の時も痛感…それでも世の中がちよいと落ち着いた時、「次に人々が必要とするのはエンターテイメントなんだ！」ってあの時はそう信じて、稽古場が暫く利用出来なかった時は、ひっそりとカラオケボックスとかで稽古を行い、その年の7月に「門出食堂」を上演。

復興に向け歩き始めたお客様達へ向けた「夢」を語ったお芝居の評判は、とても良かった！（劇団ホームページ・過去の公演・2011年7月上演 門出食堂・アンケート結果・参照）

もちろん、今はあの時とまったく状況が違うし、これから先、まだまだ「芝居を行う」って雰囲気ではない…。実際、知人達から届く芝居のダイレクトメールを見ると、「えっ!？」って違和感すら覚えてしまう。

しかし、こんな状態はいつまでも続きはしない。いや！続かせない！「夢」「希望」「勇気」「元気」の出る劇団ふあんハウスらしいお芝居をお届けする！

そんな想いはちゃんと持ち続け、今は我慢して、でも悲観的にならず、前を向いて、情勢を見ながら慎重に！ゆっくり動き出す劇団ふあんハウスでありました。